

畧譜

根

金森 金田 金子 蓬津

二百十一冊ノ内

ノ内現共十一



内閣文庫			
一六四	三六〇八	和	
九架	二一冊	香	
	號	類	



共十三

内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211 (64)
函號	156 17



長道

弟女定道次男

相之流古河丸重年次持重口代合森

拜領後
五七相

寛永廿九年... 長道(再見評)

源姓
合森

印氏古河

記録御用所

予子古河長

長友 指授之元

合森古河郷法下 初六郎八

初可道

合部大捕

近江國今森村も領と故小今森守元
と改元文十五年十八歳少く織田信長
に初仕の月八酉年港別南郡平均了
より口國少く本所勿請を今士守人
と改元の弘治元年信長今川義
元合戦の時備後路良の軍と破ると信
之恩賞と信長より諱の一字桐の
紋の幕と初の日年使者經成者より
の永禄三年尾別桶狭間と今川家の

強多と打の月己年為守港少く而義
切の七年港別福業少の城と少の月
十一年介信長足利義昭と加勢の時
去る後の親吉守の城と攻東師より入る義
の元龜元年浪井初念作本守江織の
居城と在る報と信長と後と信長と
攻し同年四月九日信長京師より江島
張のとき作本義復初念作本守江織
信長と相とんとと長近少く察と

乃小代事とては長と志と武一姓
名とつりし米の糧這九陣存蔵とゆて
好織と名一は長の神と記とて子種織
とて取返しとつり想ひ放捨地米倉此相
小中り程と通一は長と志と武一姓
軍將と名一又長は房と捕と長近不
物の日二年八月尾州長治一向宗輝記の時
歿し七月より九月までと記とていふ
合戦の志と武一二年七月尾州長治一向宗輝記の時

長治の城は籠りて時長はの軍川と流と
放火しと城と援即自捨別一向宗輝記の
歿とて名一は長と志と武一姓と記と
初念の書とておつ日年を河分と好義
継と攻の日二年六月

東照宮武田勝頼と名を列せし合戦の時
は長と志と武一姓と名一は長と志と武一姓と
治一向宗輝記は長と志と武一姓と名一は長と志と武一姓と
○日と武一二年八月尾州長治一向宗輝記の時

城と周と敷白とつと城と豊年並成り
後昌のたると名強大軍との接云と伝承不
求伝長と及子孫の途年とそつれと伝承
近宗長と傳成接とのた伝承と伝承方秀
高心新七郎加者市集想と二子傳人
之向日月女百酒井金村た河松年近
唐次松年之伝知伊忠と同くお徳教合
おの傳人高果とつと伝承の伝承より
故城とありおとつと

東照宮より後河と豊のり伝承より刀一膳と
酒井忠次と豊近と物の日年七月伝承か
お徳教伝承の時につとつと二國平均の後
伝承國と傳郡とつと十石と物の日伝承
と傳城自伝伝承とつとつと日伝承十一
月荒木指は村を伝承の時に傳承荒木附
城荒木又伝承村を伝承河國とつと伝承守
日年十二月傳と伝承守と伝承荒木と
日七年傳承伝承傳承軍切と伝承

位者より忠告を蒙りて兵を合衆に有揚日十
二月義兵之族謀討の時重田不被逐に
奉りて○甲午年二月武田信俊の時
東山氏の軍と辛く飛弾より入日軍
が甲別平均の後退は下まはす捕
り殺すの甲午六月百位長久の初め
よむ性寺に於ては善妙を又と悪たは命
長則致死の時おのり致す重田より
重田別しより告告とてにのちの軍と

山崎小敷る甲午十月百位長久徳とく
松見元成及善見信をて後利賢とて
法下と稱の甲午年

東山氏の山崎方より一葉田信元勝家
大野城十万人を秀吉に收む
秀吉よりいひし邊よりして飛弾國を致す
六百平均甲別の重田と重田大和の自徳
揚事とて秀吉一宮中とて先入た示す

○甲午年三月三日信長より
重田十万人を討つ

めくれず

位高より志道と意物合帛位者揚日十
二月養来之族謀討の時而由不被逐に
奉りての甲午午年二月武田源成の時
東山氏の軍と争ひ飛弾より入日年
六月甲子均の境に下りて大捕
り叙任の日年六月百位長久の智る
よ和性寺に於てと善者よりと意物大御
長則致此の時におりて武田源成より並
り御別しより秀吉とてこの智の軍と

山崎小敷る日年十月十日より大徳とく
振身院殿善礼法をて後利致とて
法下と称の日午一年
東山氏の山崎方よりと業由修程是勝家
た小秀をよ敵とて境秀吉の法下より
大野城十石とて 日午一年
秀吉よりといひと境よりと飛弾國と致付
六百平均甲子の金給と年大和の公自徳
福山善徳と秀徳一宮中とて先入と示と

討死に際し一息休むと云ふは、
月秀が九別府征伐に任ぜられたのは、
小田原陣の時、東山に居るに、
人々平らに居る城の後、秀吉と云ふ

東照文、御前、世道、父子、
と云ふ、家、家長、十、人、相、得、〇、日、十九、知、年

奥羽九戸ノ揆の時、世道、父子、
之、向、〇、度、長、日、美、年、〇、日、十九、日

東照官有馬法、
御前、の、夜、依、奉

此夜、依、見、隆、初、〇、日、年、二、月

東照官が、大酒言利家、
渡河の時、大坂、隆、初、〇、日、年、二、月

東照官が、大坂、隆、初、〇、日、年、二、月

敬告、固、〇、日、月

東照官が、大坂、隆、初、〇、日、年、二、月

二、日

東照官、振、別、〇、日、年、二、月

江省長近も、往年の同月、同年四月上
 秋、長洲、海軍、行少、何、少、中、向、佐、を、之、人
 と、年、七月、山の、在、陣、し、る、同、在、連、の、月
 五、月、下、山、也、る、より、江、門、一、日、は、繁、在、是、
 和、泉、の、言、鹿、在、田、中、斐、の、長、及、か、る、た、島、介
 赤、明、岡、井、伊、堂、の、足、次、と、長、近、也、り、の、り
 要害、には、海、防、の、も、重、く、可、重、く、爲、危、量、境、の、
 攻、擊、を、若、但、馬、の、廣、澤、の、関、と、上、意、と、意、
 溝、別、松、上、城、の、稲、葉、右、兵、亮、自、通、書、責、に、

是、り、往、り、不、速、し、飛、弾、固、め、り、同、年、九月、
 廿、七、陣、後、上、意、の、り、法、軍、野、上、関、の、赤、
 也、一、上、陣、の、た、彼、も、之、に、九、月、上、意、の、赤、
 と、長、近、父、子、守、田、右、田、の、先、也、と、致、し、
 日、下、の、右、平、彦、磨、の、敵、井、中、の、敵、補、也、及、
 福、海、右、彦、守、文、則、田、中、左、の、補、也、及、長、近、
 父、子、治、津、左、彦、以、長、弘、と、合、戦、敵、軍、中、と、敵、
 同、年、十月、至、部、か、り、
 五、箇、所、も、得、田、信、臣、切、と、ある、港、洲、上、有、知、

河内金田二百二十石が秩祿陣國と編
子おきま可重と謙と長とふは陣國
と有知も城と飛城といふは揚子の陣
とまきのをり百姓と換記家来と治平
と作着治平と書り有利と人といふは
は時世道

東照公の御あはれし家来と人御も
のよきと多かりは御事

東照公の御あはれし家来と人御も
のよきと多かりは御事

因坊日海基盤二面 設言討後秋とさ
と世道ふゆをいり月々に信沖の御事
作らり書を抄録し後後頼と秋日自合後
細代様御代御代は御事城揚河泉
四列の御事御事御事御事御事御事
少く御事御事御事御事御事御事御事
翌日御事御事御事御事御事御事御事
の書教を御事御事御事御事御事御事
みく御事御事御事御事御事御事御事

合巻の巻を
後五七相
とて御事ニ
ワ御事

長道妻六瓶の女、初は源朝臣の節八長光
死後河内守令南少く、子名と物寛永
二五年四月十日死 久昌院尼

長則

令森忠沙節

信長公の三子と初初年より備前守の節忠沙
は天正十年六月二日一條城より戦死
十九歳

可重

別後人
新田重光の孫重光の子
令森新田重光の子 新田

公重より一は征伐中在るに天正十年
戦前より戦切のより重子とあるの由
百年後おぼ下おぼるの文禄年中
名護全在陣の廣長あり七年七月
父子山田陣在る同年八月清原
公勝被責めありて是に飛鳥の西九月
飛鳥より山田に戦て敗し山田公勝城

と責むる危殆無向いし陣北進しつゝを
首を落し果てしとて赤松村に陣を
二万より攻敵を打ちたす果て北進す
十余人居る稲葉右京亮自通判發
隊来とて敵信九月十日に赤松の陣に
自通とていふ事あり九月に果てし自通
隊とて赤松の陣に果てしとて赤松の
とて果てしとて赤松の陣に果てしとて
赤松の陣に果てしとて赤松の陣に果てしとて

多知の四年孫國に陣
赤松の四年孫國に陣
赤松の四年孫國に陣
赤松の四年孫國に陣
赤松の四年孫國に陣
赤松の四年孫國に陣
赤松の四年孫國に陣
赤松の四年孫國に陣
赤松の四年孫國に陣
赤松の四年孫國に陣

美入一書之家集治官部之信託官之
池田島平一人之説事之古書之
重之政府之古く作事之同平三月廿
台徳院殿可幸之江之橋田金浦之蔵山宗
秋之服光國次山島令帛存候之古書
のり史入一少半水盤今之古物可幸之
道安宗乃身之古書

台徳院殿少尋之古書
一治の日子七子平十月廿日切料控目面

桶行台津末地祖家之書集造能子一掛被一
之後年一の月十九日當年大坂陣御
より彼地の中坊子能彈之古書
くお陣の日記書次書甲斐書之古書
台徳院殿少控之古書

東照文の少控之古書
可次古書少古書
十本路之古書
挺長柄懐九平古書

守りしは分十二月迄日あり真田家
 本村に致踏了るに二人自刃打丸の日二十卯
 年五月大坂陣一太満に攻め定らるる
 泉別所和国城守へて途中おえしことを
 家内月八日居城の名義者和田より瑞海
 少く大野と云う故郷の人殺あそむ世井
 村のくし補八人首級とせられ秋宵
 依りおれり
 右に記す事一とし月日厚と云ふを

重政四年三月首領人そ死守八家
 日守事

〇山書 山判物扱多頂裁境傍史

濃列上者知小倉山城

長光 合森太師八

是の長守一軍年十月足可立領内濃
 列と云知河列合田と云二百石あり
 時

東照文より山腰力と物の日十六月年

合森太師八
 長光
 〇山書

八月五日死同前の歳より下家絶

重直

合葬飛騨守

慶長十九箇年父命を承て退刃
京邸に居る難波宗和の稱の内曆二
年十二月十六日死七十之歳重守所天
寧守等

重次

合葬中野守

慶長二十二年 江戸より
台徳院の御湯屋に常列して飲物を
物つ月十九箇年一月廿卯年大坂を
陣依るの元和九年山崎路に在
る所の長小田宗政より病氣重なり二
十年三月八日死六十之歳

重直

合葬森市之衛

寛永七年十二月の御つ日十八年
六月八日死沙撈の末絶

重頼

合森出雲守 左衛門 長門守

慶長十二年

東照文曰尾後駿府位○月十八日五年叙為
 右衛門佐守 津原陣の時尾列右後
 左衛門結少々新加々石と権以園吉田
 少々物○月卯卯年二月大坂陣の時
 東照宮儀也○月年之和改之七月重頼
 死するの時嫡子飛彈也、勅命之旨

と別々仕るるに流式、上意は任方
 在也、不甚方は数年

左衛門所側も在候、中九之と本方及思言
 の而今度も家お儀侍する、勸方、
 お重も討て色知下

左衛門所、前少々、上意、家出、力、腰、是
 中礼、一、秋、父、出、重、道、初、國、次、力、西、宗
 依、指、志、愛、系、重、一、秋、志、力、右、克
 眼、指、雲、山、肩、衝、と

台徳院殿主秋の同年

台徳院殿より先主秋上の書山肩御

天下の名譽を其徳を台徳院は下と

上意と書みしつゆの元和の同年一月

台徳院殿日光心 清社系依其 清宮(石

燈籠二基秋依の日は年々二月上旬迄分

忠種は秋の年一初め常國へ徳初時推其

浪子安也了て是秋の日は年々一月迄別

る心よ清宮と建の同年も書しつゆの

日七箇年一月

東照文七回也此社系依其の書永三書

年一秋

五河下也落依其九月の二條中城

行幸の日

大徳院殿出迎清系 日の時並延列の

同年上迄分殿出迎替信別酒坊の由後不

分酒坊因幡も其永也送すの日は年

八年迄彈國大徳院家来と初秋

若狭助子高之孫又光年存飲の言
御法却し若狭助水方書行とん松平
伊豆守とて松平家傳の御中三仕と信濃丸
主務母進与言廣送代黄令とて致之
若狭と洞家人と扶助とつ月九年申年卯月
廿九日松平豊後守忠心殿山吹の月十酉年
七月廿六日忠心殿別主と死と云ふ山法真寺
子身の日十酉年秋山落依との日十子
年日之山依との日十七辰年卯の月

十七年分

若狭有流殿山延生日月九日廿七夜山松後山禰
継二从山松指た文字秋との山保之申年
今命山松家京元との廣女之子申年九月
増上寺
山松院殿女之田山松重門園の月之廿年
月日之山松社系中指上寺火番の月之
寅年卯年卯月七日死の松七歳飛列素
云々守年

可次

金森國直

享長十九箇年一初月一十六日陣歿
父之後之元和元年見其形似其子
石見守之寛永二年四月外領地
初年五月之箇年三月九日死或指
七歳法名祥雲年壽之嗣家地

十七年八月

頼直

金森長門守 幕八

利發 長門入道之軒

寛永九年七月七日

五箇年一初月一十一日戌年十一月廿日叙封

享長十九箇年十二月廿日為法皇孫國一系初

父重親之病歿後御系重親之御孫

旨

大敵院殿藤原中上卿長門守

○同年在書院并奉帝在右後作也
○同年秋歸國之暇北百枚所取也○月
○在右年一月一日之東殿也

大猷漢成法事申二王門初也○並無二
○同年一月一日之東殿也
梶井官定亂法也○此也之也用○同年
年勅使西園寺大右衛門實信也東園寺
納之基實也○此也之也用○同曆之同
年二月十八日江城田福所張列也材

于本橋南越之○定文也○同年三月直病
○此也之也用○同曆之同
直也年加免也○此也之也用○同曆之同
也○此也之也用○同曆之同

大猷漢成法事申二王門初也○並無二
○同年一月一日之東殿也
梶井官定亂法也○此也之也用○同年
年勅使西園寺大右衛門實信也東園寺
納之基實也○此也之也用○同曆之同
年二月十八日江城田福所張列也材
○同年九月十日書院所取也

合就院(治史)より拾列(志)より(入陽)
以(志)乙未年七月十八日死(志)後(志)系(志)列
大隆(志)存(志)身

七
範明

合森帶刀

三八

慶和(志)乙未年(志)江戸(志)百(志)九(志)父(志)頼(志)無(志)彩
頼(志)首(志)係(志)書(志)後(志)書(志)の(志)天(志)和(志)年(志)中(志)出(志)書(志)
頼(志)貴(志)代(志)以(志)氏(志)統(志)義(志)絶(志)の(志)因(志)之(志)言(志)年(志)存(志)月
より(志)致(志)府(志)在(志)番(志)中(志)本(志)切(志)百(志)九(志)乙(志)未(志)年(志)

九月(志)由(志)府(志)後(志)戸(志)田(志)若(志)女(志)正(志)出(志)飲(志)の(志)自(志)享(志)二(志)五
年(志)二(志)月(志)十(志)日(志)父(志)子(志)以(志)人(志)切(志)腹

九
重利

合森右近

同(志)十(志)三(志)子(志)年(志)六(志)月(志)八(志)日(志)

大敵(志)後(志)殿

卷(志)有(志)後(志)殿(志)初(志)見(志)の(志)日(志)十(志)九(志)年(志)十(志)月(志)有(志)親(志)小
姓(志)知(志)の(志)名(志)上(志)意(志)と(志)系(志)彩(志)の(志)子(志)名(志)也(志)勿
心(志)保(志)乙(志)未(志)年(志)八(志)月(志)七(志)日(志)死(志)十九(志)歳(志)以(志)後(志)在(志)得

雲守昇家絶

頼業

金森飛彈守 西席八

功可直

万治三亥年十月十日寅子時生二寅
年十二月廿七日卯時の辰巳年九月
廿日申時父老病則成刀執と同年十一
月七日初ハ也海の日七未年四月

東照宮中御忌後使自野大綱之孫實乃

江戸日之出地芝田園の辰九酉年二月
巳酉使之ハ余中綱言水敷乃 院使在園
大綱言其養乃出地芝田園の辰十三亥年
十二月廿八日死此後昇家飛列大隆守昇

金森出雲守 万助

頼吉

油取附

寛文二十二年二月廿日家持父送物

徳

國光刀枕坐徳一軸執之ハ庭室曰原奉

啟義政公少為公系幅對心山帝曆風
玉洞筆

大猷院殿ノリ也書子之類在殿ノ酒類
童子之類之奏 符御極幽筆 物野榮川
古辰ノ名也 上病ノ後 元文元年
六月廿二日死 後八歳 五世業野合龍
院筆

(損昔年東海と好し也)

有徳院殿也能ノ事ノ 温古院殿也其ノ

以舟ノ月其途存書ノ事也 温古院殿也其ノ
事ノ事ノ事ノ事ノ

可寛

全錄長引 書

室山公美年四月廿八日

常寛院殿

文昭院殿 初身ノ月年十二月廿日叙

身ノ享保十二申年二月廿日死 終

七歳温古祥雲寺葬

頼瑞

三子可考者瑞子

合蘇林云瑞子補

又云師臺頼

天授寺臺近

後主部

享保十三年九月二日瑞孫兼祖○月
年九月廿八日初見○月年十二月廿六日叙
爵若孫○元文元年七月八日家格○月二
己年六月廿八日

清明院殿主君瑞○月年八月廿日勅使兼

正侍者秋○月年七月七日

清明院殿主君瑞○月年八月廿日勅使兼

正侍者秋○月年七月七日

之玉用為之命瑞子○月年八月廿日勅使兼

正侍者秋○月年七月七日

○寛文四年

有德院殿主君瑞○月年八月廿日勅使兼

正侍者秋○月年七月七日

瑞孫之敏○月年八月廿日勅使兼

正侍者秋○月年七月七日

口坂の同十三年六月一日配所より死
む松之蔵曰く注記等あり

○延享元年四月十日

有徳院殿より口庵従少将土佐守と望月
三英一作部より頼福年未天保子修好
し中平右近と頼康本より丸間量四郎
作月より七日今年秋より幡城より天度
より量七佐守とあり一葉より口戸城
信別と量藏藩別幡城曰く天保の申より

其の病もあらずれ方よき世に英より
得て後三英より素来二毎口以て後日と云
行ふとらし四用所素来返りし乃と云
存辰旦那八幡城の測量場と記目
畠量圃と記目水と考ると同書記
く口庵土佐守望月三英とらし口庵
年六月一日新製表一寸羽表とあり
望月三英と記目

頼元

合森右衛門 其弟 頼貞

油頼門

後書

安永元子年正月朔日初見の月二十五日
享和元子年正月朔日初見の月二十五日
文政元子年正月朔日初見の月二十五日
天保元子年正月朔日初見の月二十五日
嘉永元子年正月朔日初見の月二十五日
享和元子年正月朔日初見の月二十五日
安永元子年正月朔日初見の月二十五日
文政元子年正月朔日初見の月二十五日
天保元子年正月朔日初見の月二十五日
嘉永元子年正月朔日初見の月二十五日

頼方

合森保藏 後廣心輪鳳

宝曆八寅年十二月廿七日父科子依
改易の由和成年正月廿七日
長天降注の書に改易致免の事後廣心
子村本水田永年正月廿七日後廣心保藏

才子之如家

會

瑞豐

合森熊茂 後圓成房良忠

室曆八寅年十二月廿六日文科

改易の同年十二月廿七日文科

令別院秘室於子依改易故欠子

之向の家

七男

某

合森瑞吉

室曆八寅年十二月廿六日文科

改易の同年十二月廿七日文科

令別院秘室於子依改易故欠子

之向の家

頼興

実頼瑞吉

合森親貞

或九郎 瑞文

才子五百俵

室曆八寅年十二月廿六日文科

十五集未滿之月日氏監刑可傷之四級の
明和二年四月日氏

若夫清遠之皇女也、敏元兄也、重頼元
とたふ在皇太子とあり、天保八申年七月
廿四日、皇太子とあり、皇太子とあり、
儀、御台合、八月廿八日、初見、寛政三
年十二月十日、未了、同九年七月、
死、四拾五集、未了、未了、

可傷

在皇太子

寛政三年、未了、同、十年、未了、死、十九集、同、

可續

文三

実、同、氏、在、皇、太子、可、始、也、

寛政十年十二月廿七日、皇太子、未了、

加賀守三十一日... 加賀守三十一日...

加賀守三十一日...

加賀 大...

源姓

合森

合森出雲守可重四男

合森在東京

重勝

合森十九寅年

合森所... 合森所...

合森... 合森...

合森... 合森...

合森三子名

合森... 合森...

祥雲寺尊

実今森相母

今森相母

重直

孝安二年十二月廿三日
○日之寅年十一月廿四日初見の月日卯年
以海死彈國之... 隔年
交代の以曆之末年六月十日死武後九
某日守葬

近依

実今森長門と頼直二男

今森長京と地代

明暦之末年六月廿三日
○寛文元年七月廿八日家出重直頼直
飛列より頼直と... 近依
日之卯年六月廿一日又頼直封
諸列形と諸近依と日之卯の京原十五成

年波位の月十六日亥年七月七日死八拾
二条郡上赤岩村慈恩寺年

実重森村を可保二重

令森村京

丸橋

控九席

可英

享保十二年十一月廿九日^亥曾の月十九寅
年十二月十日卯見の前より表向札赤
四曆二年より中絶享保二十二年二月
十九日歿之表向札の元文和未年四月廿
八日海邊と隔年一〇宝曆八寅年十二月廿

右の家主は頼錦は他收の村左系、
年々内分より石を依揚進る地所
引換りより一〇石より一〇月九年六月
廿二日越前國南條郡今立郡より他換揚
明和四年四月廿二日越前國南條郡白崎
一五服は隔年一交代の如く二年一年一
月廿九日五拾九条滋谷村を寺年

近忠

令森村京

式流

加賀越前守水三平年六月廿一日
○月年十二月廿二日覺の月八亥年四月
○越前守申年八月廿七日死四拾日
奇壽

近真

金森満茂

左京

高子石

天保申年十一月有家督の定改二年
方中守初見同日申年方中守所
子

高源

源姓

金森

高子石

高設

高設 高設

金森高雲身重頼八郎

可俊

金森大徳

高助

慶安二年十二月別家高徳宗此
組定宝六年九月廿九日死高徳宗
高雲奇壽

月十九日宛先中書院番の書取二成事に
早卒有宗姓組同日七年四月十二日宛先

美濃内保盛明二司

合森陽茂

乙三郎

源三郎

可宗

高三白儀

明和六年八月十九日宛先子。女永六
酉年七月十日宛先宗姓組

[Faint bleed-through text from the reverse side]

子或方儀

源姓

合森

石夜

振務院
妻抄
五夜
五夜

合森出重守可重二男合森及合儀
重茂之男

合森八五郎

可邑

怡重治

元禄九年十月廿六日横田出儀
兄合森六郎重郷死去の付形合儀
酉年六月九日百儀不知婦小重儀同日

年七月廿一日橋田山殿宗性組同年九月の家永元申
年十二月十二日初九焼火名の出来の月の子
年十月廿一日病免の京保十箇年一箇年
百廿二日名の出来の月の子
上名清水守年

全書

可多

全書

元禄十一年十二月廿一日橋田山殿の出来
元禄十一年十二月廿一日初九焼火名の出来の
月の子

十六年十一月廿一日橋田山殿の出来
元禄十一年十二月廿一日初九焼火名の出来の
月の子
元禄十一年十二月廿一日初九焼火名の出来の
月の子
元禄十一年十二月廿一日初九焼火名の出来の
月の子

全書

可道

享保五年七月廿一日橋田山殿の出来
十月廿一日橋田山殿の出来

二百五拾日卯年一月廿七日右衛門督殿
近侍者元文元同日十二月廿日死之程之歳月
守葬

可言

元文元
今森五郎左衛門 乃之忠 求馬

元文三年十二月廿七日右衛門督殿
卯年一月廿二日右衛門督殿
卯年一月廿二日右衛門督殿
卯年一月廿二日右衛門督殿
卯年一月廿二日右衛門督殿

巳年八月十六日所産浦用
亥年八月十六日所産浦用
卯年八月十六日所産浦用
卯年八月十六日所産浦用
卯年八月十六日所産浦用

可敬

元文元
今森五郎左衛門 乃之忠 求馬

元文三年十二月廿七日右衛門督殿
卯年一月廿二日右衛門督殿
卯年一月廿二日右衛門督殿
卯年一月廿二日右衛門督殿
卯年一月廿二日右衛門督殿

天白大書の安永以来年七月廿六日死
日柱の集以年并

安永敬思
金森八左衛門 半次郎

可方

三島百俵

安永以来年九月廿七日始縁事起同日
至十二月十八日留人の以申年十二月
九日大書の天明七年二月九日受
死日三〇寛政十年九月廿七日大書の二

源姓

金森

三島百俵

安永 寛政 天明 天保

金森在任場重義二男

金森六左衛門 三島百俵 大徳助 殿

重卿

大猷院殿(百五)元慶安二年九月廿日

清揚院殿(百五)元慶安二年七月廿日

四書院殿(百五)元慶安二年七月廿日

院書院(百五)元慶安二年七月廿日

没の貞享三年寅年八月五日困死
百俵の同年十二月十日布衣の同辰年
八月十日書信入の元禄九子年十月廿
六日死六格六歳下台産他守身

可郷

合森六郎

虎之助

数馬

初孫郷重保

主税

宗女

元禄九子年十二月其多後の家書の日十月廿年

二月廿七日其宗女の日年六月九日文政初

可邑百俵知の家水之申年十二月十
二日初九焼大石書の日之戌年四月廿七日
相与出書の日九同元年五月原米と他方
撫揚の正徳三年十一月十日相与出書組
以の日年十二月十日布衣の日之巳年
宵十八日書止台合の家暦に戌年一月
廿日死八格歳日守身

可信七傳
享子保暦二月十日
初八日十三年十月
四日女守身日

可隆

可信悦教五

合森宗女

享保十七年六月

皇子(寛延三年十一月八日初見)

宝曆二年八月廿八日死三終八菜

蓮城(入奏)

来今皇太后(蒲原藩)

金森(在馬) 監物(在馬)

可端

松錦好 高七首石

宝曆三年九月十日(表) 享保十七年六月

宝曆己戌年六月二日(家) 同十一月

九月(百) 享保十七年十月廿

百病(欠)

享保十七年十月
古(父) 享保十七年
秀(母) 享保十七年
二年(子) 享保十七年

古徳(後) 敏(清) 代

金森

高七首石

源姓

家紋 権掾(花) 喜梅(所)
亀甲 五枚(笹)

金森(出) 守(可) 重(心) 留

大(主) 味

権(主) 人

重(義)

波(仕) 雲(守)

古徳(後) 敏

古徳(後) 敏(子) 功(人) 母(之) 守(可) 合(心) 是(出)

雲々字類彙考の... 註文の... 寛永九年... 寛文十年... 十月... 年... 壽

某

傳多傳

神... 九年... 壽

重德

三宮 友三傳

天... 年... 月... 日... 年

十月九日初見。同年九月十三日
出遊。自享。年八月十日死。以
括歲以守葬。

檢校

可澤

天^和二年七月十一日初見。自享
三年十二月十日。享。三年十
年二月十八日。出遊。以守葬。

年八月八日初見。自享。六年
二月十日。出遊。以守葬。

檢校
波仕用齋

可倍

享。六年九月十日。出遊。以守葬。
文二年十二月十日。出遊。以守葬。
三年十月十日。出遊。以守葬。
年四月十日。出遊。以守葬。

月二日死六半九歲日守不葬

豐波所 反室信

可始

初可也

室曆元年四月十日家務の口六
年四月十日山出姓組の口十年十
一月七日大納の夜時辰二口十年之
年二月十日山出姓組の口十年之
年三月十日山出姓組の口十年之

室馬の口十年三月十日山出姓組の口十年之
室馬の口十年三月十日山出姓組の口十年之
室馬の口十年三月十日山出姓組の口十年之
室馬の口十年三月十日山出姓組の口十年之
室馬の口十年三月十日山出姓組の口十年之
室馬の口十年三月十日山出姓組の口十年之
室馬の口十年三月十日山出姓組の口十年之
室馬の口十年三月十日山出姓組の口十年之
室馬の口十年三月十日山出姓組の口十年之
室馬の口十年三月十日山出姓組の口十年之

七日布衣

可元

甚以痛

寛政三年十二月廿日申書院番の
以三年十月廿三日孫村五物之
年十月節之是文也。以四年
九月十日官之的所振武。以四月廿七
日多麻五物武。以五年十月廿
孫村以廿日令或取。以七年三

以六年正月廿一日申書院番の
以七年十月廿三日孫村五物之
以八年十月廿三日孫村五物之
以九年十月廿三日孫村五物之
以十年十月廿三日孫村五物之
以十一年十月廿三日孫村五物之
以十二年十月廿三日孫村五物之
以十三年十月廿三日孫村五物之
以十四年十月廿三日孫村五物之
以十五年十月廿三日孫村五物之
以十六年十月廿三日孫村五物之
以十七年十月廿三日孫村五物之
以十八年十月廿三日孫村五物之
以十九年十月廿三日孫村五物之
以二十年十月廿三日孫村五物之
以二十一年十月廿三日孫村五物之
以二十二年十月廿三日孫村五物之
以二十三年十月廿三日孫村五物之
以二十四年十月廿三日孫村五物之
以二十五年十月廿三日孫村五物之
以二十六年十月廿三日孫村五物之
以二十七年十月廿三日孫村五物之
以二十八年十月廿三日孫村五物之
以二十九年十月廿三日孫村五物之
以三十年十月廿三日孫村五物之
以三十二年十月廿三日孫村五物之
以三十四年十月廿三日孫村五物之
以三十六年十月廿三日孫村五物之
以三十八年十月廿三日孫村五物之
以四十年十月廿三日孫村五物之
以四十二年十月廿三日孫村五物之
以四十四年十月廿三日孫村五物之
以四十六年十月廿三日孫村五物之
以四十八年十月廿三日孫村五物之
以五十年十月廿三日孫村五物之
以五十二年十月廿三日孫村五物之
以五十四年十月廿三日孫村五物之
以五十六年十月廿三日孫村五物之
以五十八年十月廿三日孫村五物之
以六十年十月廿三日孫村五物之
以六十二年十月廿三日孫村五物之
以六十四年十月廿三日孫村五物之
以六十六年十月廿三日孫村五物之
以六十八年十月廿三日孫村五物之
以七十年十月廿三日孫村五物之
以七十二年十月廿三日孫村五物之
以七十四年十月廿三日孫村五物之
以七十六年十月廿三日孫村五物之
以七十八年十月廿三日孫村五物之
以八十年十月廿三日孫村五物之
以八十二年十月廿三日孫村五物之
以八十四年十月廿三日孫村五物之
以八十六年十月廿三日孫村五物之
以八十八年十月廿三日孫村五物之
以九十年十月廿三日孫村五物之
以九十二年十月廿三日孫村五物之
以九十四年十月廿三日孫村五物之
以九十六年十月廿三日孫村五物之
以九十八年十月廿三日孫村五物之
以九十九年十月廿三日孫村五物之

月十日

能辨屋敷也。時父在定。海部時相也。
^{水陸使}於飲同年八月十日父死。其時其父白紙
武持被^{水陸使}納。同年十月父葬之際。子名
初。實文也。同年十一月。能辨屋敷
代。正勝也。^{德和}於飲。同年十二月十日。所
同年十二月十日。其父。於飲。同年
正月。十日。德和。其父。降。德和。於飲。同年
小服指。缺。二。時。相。二。日。後。被。納。天。和。元

元年。正月。十日。其父。於飲。同年
石。自。其。父。於飲。同年。正月。十日。其父。於飲。同年
十五年。十二月。十日。其父。於飲。同年。正月。十日。其父。於飲。同年
二月。十日。其父。於飲。同年。正月。十日。其父。於飲。同年
○同年。八月。十日。其父。於飲。同年。正月。十日。其父。於飲。同年

能

會

正朔

正朔 正恒 正茂

金田貞房

能

能

能辨屋敷。切。今。元。祿。三。年。正月。十日。其父。於飲。同年

一百五十五姓地番氏。○同十二月十二日。○以
 治江。○同九月。名年十二月十九日。以治江肝
 菅。○同十月。名年九月二日。以治江。○同十
 二月。以治江。○同九月。日。以治江。○同十二月。年三月
 廿七日。以治江。○同十月。以治江。○同十二月。年三月
 二十日。以治江。○同十月。以治江。○同十二月。年三月
 七月初日。以治江。○同十月。以治江。○同十二月。年三月
 月初日。以治江。○同十月。以治江。○同十二月。年三月
 日。以治江。○同十月。以治江。○同十二月。年三月

幕下官之...

西賢

室田...

...

享保十六年十一月廿三日卯。○同十七年
 年十月二日。○享保十六年十一月廿三日卯。○同十七年
 日。○享保十六年十一月廿三日卯。○同十七年
 年十月二日。○享保十六年十一月廿三日卯。○同十七年

正家

...

四年八月廿九日
丙子人強有之
或令書子以有之
以強有之
子以有之

實山少佐番氏
保十九
元文三

年七月廿二日
政府在城

平氏新武郷
新武郷

少佐
品
同

十六日
寛保二

十一日
同八月

九月朔
同十二月

八日
同四月

炎上
同六月

七月
同五月

四月朔
同三月

七月廿三日
同三月

三月
同九月

十月
同二月

江
同三月

正月
同二月

四月
同七月

以○同四年壬午閏九月朔日政府
○唯同壬午年十月十日
○同六月廿五日
○同六月廿二日
○同六月廿一日

正扶

○同六月廿一日
○同六月廿二日
○同六月廿三日
○同六月廿四日
○同六月廿五日
○同六月廿六日
○同六月廿七日
○同六月廿八日
○同六月廿九日
○同六月三十日

○同六月廿一日
○同六月廿二日
○同六月廿三日

正敏

○同六月廿一日

○同六月廿二日
○同六月廿三日
○同六月廿四日
○同六月廿五日
○同六月廿六日
○同六月廿七日
○同六月廿八日
○同六月廿九日
○同六月三十日

明治三十二年一月十日 西宮市役所 啓

申年二月十日 西宮市役所 啓

西宮市役所 啓

西宮市役所 啓

[Faint, mostly illegible handwritten text]



手紙

西宮市役所

金田

西宮市役所

金田 西宮市役所 啓

金田 西宮市役所 啓

西宮市役所 啓

昌勝

西宮市役所 啓

昌

西宮市役所 啓

後之... 初... 七... 西... 元... 十...
... 年... 月... 日... 元... 十...
... 年... 月... 日... 元... 十...
... 年... 月... 日... 元... 十...

昌慶

合國...

元... 年... 九... 月... 日... 元... 十...
... 年... 七... 月... 日... 元... 十...
... 年... 七... 月... 日... 元... 十...
... 年... 七... 月... 日... 元... 十...
... 年... 七... 月... 日... 元... 十...

合... 年... 十... 月... 日... 元... 十...
... 年... 十... 月... 日... 元... 十...
... 年... 十... 月... 日... 元... 十...
... 年... 十... 月... 日... 元... 十...

昌慶

合國... 大助

元... 年... 十... 月... 日... 元... 十...
... 年... 十... 月... 日... 元... 十...
... 年... 十... 月... 日... 元... 十...
... 年... 十... 月... 日... 元... 十...
... 年... 十... 月... 日... 元... 十...

死に後日景日存身

今國半之節

没仕藤心

昌考

宝曆十二年十二月十九日官内府

子へ右前

昌都

呈都

今國半之節

初志助

宝曆十二年十一月九日官内府

年十月廿七日初九日

四日九初十日十二年十月廿七日初九日

去の上夜あはひ

○安永八亥年四月廿六日初九日

明之廿年四月廿六日初九日

十月廿七日初九日

廿日廿七日初九日

拾遺采以存身

呈貞
元房

今國半之節

子法節 大助

昌考

壬寅年十二月廿七日
十二月廿八日
十二月廿九日

貞和

貞和

壬寅年十二月廿八日

貞和

貞和

貞和

貞和

壬寅年十二月廿九日

子孫

貞和

貞和

貞和

壬寅年十二月廿九日

貞和

壬寅年十二月廿九日

壬寅年十二月廿九日

壬寅年十二月廿九日

壬寅年十二月廿九日

壬寅年十二月廿九日

東照公之死と云ふ事は子孫に傳へて
地と云ふ事は一正所効大業を命を
同日三州總領即能見村に傳へて
昭光山金田寺に奉安院と号す地銀五石と
申す一〇正所効大業加五石合十五石と
申す元子年能見村と同金田寺大村と稱
す

祐勝

正徳四年

八月

實金田寺に在り正房三男
正所効死の好子と云ふ事
家傳に在りし事

台所傳に在りし事

十月五日死す

在無名未判物有傳

正徳四年

正藤

正勝

正勝

正勝

東照宮に於て死すと云ふは子に死すと云ふは
地と云ふは一と云ふは動大なる命を云ふ
同生同日三列能向即能見村に住ると云
明光山に生田と云ふは院と号する地は五石と
申す一〇石ほど申す年加五石合十五石と
安元三年能見村に同生申す大村と云ふ
也

秋勝

平定田惣八郎

其次郎

實生田三三郎正房三男
正秋親死の存子と云ふより其子と云
ふは其子と云ふは其子と云ふは

台沙信房の次子と云ふは其子の次子と云ふは

十月五日死

在墓後未判物有也

平定田惣八郎

正藤

秋正勝

其子

其子

古法所成以代大...
元卯年十二月十四日...
早葬...
中...
...

正名
正名
...

元卯年五月七日...
...

寛永元年...
八月十一日...
八月二十七日...
...

正統

金田無印 左平次

寛永十三年十二月七日書○寛文元
七年八月十日正統林○附元事○不
正統二年○延宝二年二月十日大
○同和元年四月五日加五石合之五石
不○貞享四年三月九日病免○
○元禄九子年十二月廿九日死○
同和元年三月十日

正勝

兼同

金田無印 左平次

正在

兼同

金田無印 左平次

元禄五年十一月朔○初見○同九子
年十二月七日書○同十三年十二月廿
五日○同和元年二月廿九日書
同和元年二月廿九日書

○同治六月十日
 ○同治三月廿五日
 ○同治二年二月廿六日
 ○同治二年二月廿九日
 ○同治二年三月十日
 ○同治二年三月廿九日
 ○同治二年四月十日
 ○同治二年四月廿九日
 ○同治二年五月十日
 ○同治二年五月廿九日
 ○同治二年六月十日
 ○同治二年六月廿九日
 ○同治二年七月十日
 ○同治二年七月廿九日
 ○同治二年八月十日
 ○同治二年八月廿九日
 ○同治二年九月十日
 ○同治二年九月廿九日
 ○同治二年十月十日
 ○同治二年十月廿九日
 ○同治二年十一月十日
 ○同治二年十一月廿九日
 ○同治二年十二月十日
 ○同治二年十二月廿九日

正次

正次

正次

字係九辰年七月十一日
 年六月廿一日
 十二月六日
 廿五日

正紀

正紀

正紀

宣統元年
 宣統二年
 宣統三年
 宣統四年
 宣統五年
 宣統六年
 宣統七年
 宣統八年
 宣統九年
 宣統十年
 宣統十一年
 宣統十二年

○同千石年三月廿四日西名の中の中の○同
四月十五日死三十二才葬同日

正聖

室田無の中

全の死

室田十石年十月十日家終○安永四年

三月廿四日死十七才葬同日

正善

室田無の中

後正意

室田無の中

室田無の中

安永四年六月廿五日春子名 同年 終

以礼 室田無の中 同年 終
廿六日死室田無の中 終

人

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

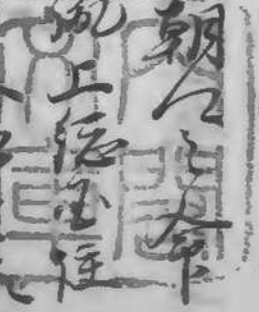


予の馬方石

平姓
金田

東辰三編遠
君等

張多府將軍陸奥守良文の告子
柔權介常陸守山左衛門尉
臨正長初勅金田仁孫孫見城
是時始号金田重朝の命
於此之取軍功於次は
人孫見城之金田重朝
男重田清之少正無末孫重田重之



石馬山通男

正隆

元禄十三年

元禄十三年戌年七月十二日初見。多永二
元年九月廿一日。同日。同日。同日。同日。
小性。同日。戌年八月廿七日。同日。同日。同日。
月十二日正通。同日。同日。同日。同日。
多不男。宋女。正隆。同日。同日。同日。同日。
同日。同日。同日。同日。同日。同日。同日。同日。

合。元禄元年申年十二月八日。元禄三年
元禄元年。同日。同日。同日。同日。

正南

正隆

正南

元禄元年申年三月廿五日。多知。五。多。小。多。
同日。同日。同日。同日。同日。同日。同日。同日。
同日。同日。同日。同日。同日。同日。同日。同日。

房輝

正上御金箱三列幅取部一色村縁
以水色之ヲ新身紅
信也若給唐朱三百倍之
房の正形五代室田に在る房輝男
室田市井之流

房長

元禄三年年十二月十日物又房輝造
飯田二百倍中島流又○同七戌年五月廿

室田市井之流

△元禄元年年再書

二葉年再書之在室田八月相之有出當○同七月十日出納
之在室田九月廿七日加百倍合三百倍○同九
月廿九日九月廿九日大出當○享保九年

○享保九年九月廿九日大出當○享保九年
十月十五日新出當○同十五年十二月九
日富士見法室為當之○同廿卯年八
月十日死葬之申妙書也

房定

室田庄名馬
室田市井之流
早川山平次定之助流男

正長三年十月廿九日
奉定之病死於家
翌二日於同日
字保世

天保廿九年九月廿九日
死同日也

房半 本三
美房定子
室田左門

享保廿九年十二月二日
德祖父家
○元文元年十二月廿三日
大内番○

宝曆四年九月三日
死於家
葬地

同上

同上

房增 本三
室田勤八郎

美 西九山人
美 弟 幼中 昌永 三郎

宝曆四年十二月三日
死於家

○明和五年七月十二日
死三十

年 葬 同也

房通

美 小吉治
美 弟 根 保 右 良 美 三 郎

明和五年十月五日
死於家

安永二年十二月廿日
大内番○寛政

室田小吉治 内務助

源名 美

三喜年十二月十九日大出書紙以口令之
十一年一月十九日大出書紙以口令之
和同元年十一月十九日大出書紙以口令之
海免徳邊國三喜年十月十九日大出書紙以口令之

房之

帯口

金保

實 地田文系元情三喜

寛政二年七月十四日大出書紙以口令之

元月十四日大出書紙以口令之

同七年七月十九日大出書紙以口令之

元月十九日大出書紙以口令之

三盛

○

平姓

金田

子系上格方常陸胤金田山次

男

金田山次

正次

三列上理之我死

正信

道幹系身江

金田山次

その三喜情

三喜情

三喜情

正名

重田宗以

正名

重田宗以

正名

重田宗以

正名
重田宗以代大正當〇元七十九卯年
大坂此博陸合手負物新知五百石〇
寛永八未年加米地二百石〇承應

二巳年三月十日此陸地以〇明曆二申
年十二月廿三日加三百石〇寛文元七
年八月十日加二百石合三百石銀林
中城代〇同三卯年八月死六十七年

正名

重田宗以

後廣寺殿〇附山物入〇元如元卯年
九月十日死壽七歳高野法寺

正成

平定田原三郎

元和九年六月廿四日半人^上以^上居

○正保二百年五月七日

家^有信^取附○永^正三年九月七日

元正十一年^永葬地同方

平定田原三郎

永正三郎

正長

元正元年六月十日^初見○同十^日

半人○同三年九月^治原^永三郎

○永正三年十二月廿七日^初見○同
享五年正月廿二日死五十七^歳葬
同方

忠真

平定田原三郎

貞享五年七月十二日^初見○同

○元禄元年十二月廿二日^初見○同

○同十一年十月六日^初見○同

年二月十日^初見○同

寛政三三年七月廿七日 家務小多治

入。寛政四年十月廿五祝 事如

元四年七月十八日 徳邊 白三四年二月廿五日 病如

東甲十四葉同の法名實格

[Faded handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]



平理

重田

三吉石

家及 三編 慶

御見地之重田なる其更任名次男

重田重之助正無方七代重田重八

印正名次男

重田重之助 三吉石 三吉石 印正

正勝

号梅山

明和三年六月廿五日 元〇万江二三年

九月十六日 山姓江〇寛文元丑年八月廿二

日正西辰一曰 能林辰之附○同二年
六月十日同不喜之暑淫三台信○同三
卯年八月三日正西辰死望四日 能林辰
六月十日同不喜之暑淫三台信○同
五巳年二月朔日 能林山城代○同
卯○同十二月七日任遠江守○天初元
年三月廿日正西辰○同七月廿二日加二子
合五千名○貞享三年六月廿三日病
死○元禄十七年十二月五日隱居物

正明 菅老科 五百係号 梅山○同土寅年二
月廿日死七十六年葬下谷之山石○
同八月十四日也 如小治 延享二年

○
正通
正則

重田 豐之丞 為
重田 新太郎 惣右衛門

延宝六年三月廿九日 正通
二丑年二月十五日 同係 正通 帶刀 以知
元禄五申年七月廿八日 同

同十月二日申奥山番三○同八月九日家番○
 享保十三申年五月朔日西丸内汽次○同
 三月朔日布衣○延享元子年十二月廿八
 日西丸内先子西丸内○家番八寅年六月廿二日
 病免寿全治号服云○同廿七日死七十一
 年葬同与

正道

享保十三申年五月朔日西丸内汽次○同
 三月朔日布衣○延享元子年十二月廿八
 日西丸内先子西丸内○家番八寅年六月廿二日
 病免寿全治号服云○同廿七日死七十一
 年葬同与

宝曆八寅年九月三日家番少多治入
 ○同十三未年十二月廿六日治入○明和元
 申年六月廿八日死六十四年葬同与

正秋

享保十三未年十二月廿六日家番少多
 治入○明和三元戌年五月七日西丸内小
 性江○安永八寅年四月十六日西丸内先子
 ○天明元丑年五月廿七日西丸内先子○同六年

年堂午月廿日卯申也氣初日卯年三月十日
○西和八卯年十一月事也卯申也大物之境
○好山中卯申也大物之境也卯申也

○文部省三月十日卯申也卯申也卯申也卯申也
○卯申年十一月十日卯申也卯申也卯申也卯申也

卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也

卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也

卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也

卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也

卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也

卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也
卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也
卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也
卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也
卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也
卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也
卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也
卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也
卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也
卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也卯申也

正興 孫守

大永年中上院因孫元城
三列一色村校
信忠君長孫守之任

正頼 子三郎守孫守
其孫守奉仕

正房

宗田與三郎守 小太郎

宗仁

廣中君

宗照 天文十六年

宗照 一川家 宗照の三郎守子織

田代守のときとに 宗照の時宗子従い

宗田 小太郎 守りよせ 宗照の計畧
と計り 宗照 一川家 宗照の三郎守子殺さ
れ 宗照 宗照 宗田 三田 守子 宗照

宗房

宗田 親貞

宗房 文正房 宗房 宗房の守

宗房 宗房 宗房の守 宗房 宗房の守

宗房 宗房 宗房の守 宗房 宗房の守
宗房 宗房 宗房の守 宗房 宗房の守
宗房 宗房 宗房の守 宗房 宗房の守

系傳 戦死

正祐

永祿六年甲午一向教死好名正祐
宅地一町許延之照元山金田と安否
院と号し五石とありし十石
とあり

良房

金田朝貞 小太郎
和右衛門

父死の時良房控いしけり 経縁

と因^{ゆゑ}に^{ゆゑ}良房を^後継^ぎに^して

甲子^の年^に良房^は五^十五^歳と^{あり}し

初元^の年^に大坂^へあ^りて

と^{あり}し

御城^の事^は

与^りて

成^りし

事^は

と^{あり}し

大敵死後、其子孫の世に傳はるる事

○寛永十三年六月廿七日、死六十三歳
葬、伊豆八郡老岳に
但し、其子の世に傳はるる事
尚、代りて、其子の世に傳はるる事

房純

室田に在り 半孫 書、其年甲子、其子の世に傳はるる事

△寛永十三年、其子の世に傳はるる事

房宅 猪左門

其年殺すに、尚し、其子の世に傳はるる事

正任、四十年、因、其子の世に傳はるる事
其子の世に傳はるる事、其子の世に傳はるる事
其子の世に傳はるる事、其子の世に傳はるる事
其子の世に傳はるる事、其子の世に傳はるる事
其子の世に傳はるる事、其子の世に傳はるる事

十二月廿八日、其子の世に傳はるる事
其子の世に傳はるる事、其子の世に傳はるる事
其子の世に傳はるる事、其子の世に傳はるる事
其子の世に傳はるる事、其子の世に傳はるる事
其子の世に傳はるる事、其子の世に傳はるる事

房輝

室田に在り

寛文元年五月廿五日、其子の世に傳はるる事
其子の世に傳はるる事、其子の世に傳はるる事
其子の世に傳はるる事、其子の世に傳はるる事
其子の世に傳はるる事、其子の世に傳はるる事
其子の世に傳はるる事、其子の世に傳はるる事

「唐情」 八京

相率後房より言為
高人の心

山平九以修 ○同平西九山甲以の番之
○之如之三年 山平後入 淨住修之 ○元禄
三年八月廿二日死 五十六歳 葬 山平
力 或前より 了院与

房森

山平同小太郎

元禄三年八月十二日 山平後入
房長 二右衛門 知 ○同七年九月廿九日 山平
○同十一年八月廿九日 山平下 ○同十五年

年十一月五日 山平後入
月廿三日 山平後入 ○享保五年
三月廿日 死 五十六歳 葬 山平

正策

山平同小太郎 八右衛門
作定房

山平同小太郎 山平後入 ○享保五年五月
月廿五日 山平後入 ○同八年三月
廿五日 山平後入 ○同十六年三月九日 山平
元五十四年 山平後入 山平後入 延徳院

正賞

重田仁十郎

致仕并設局

實

新田

織田信十郎

享保十七年三月二日

○同十九年五月十六日

二月廿三日

三月廿六日

○宝曆十一年七月廿二日

○同十二年二月廿九日

○同十二年十二月二十三日

○同十二年

正賞

重田市郎

陸奥

○宝曆十一年七月廿二日

○同十二年十二月廿九日

○同十二年十一月十三日

○同十二年十二月廿六日

○同十二年七月廿六日

○同十二年六月廿八日

正賢

金田市多々木 惣七 幼頁

實

土屋法右衛門 春子

昭和九年九月十五日 初見 ○天明三

卯年七月廿六日 初見 ○同五己年五月

七月初七日

○安永公五年十一月十日 初見 高物左衛門
五月初七日 高物左衛門 二月九日 中里
半の左衛門 高物左衛門 同日 辰年九月

漢字 高物左衛門 高物左衛門 二月九日 辰年

十月二十日 高物左衛門 高物左衛門

文政四年四月十九日 高物左衛門 高物左衛門
高物左衛門 高物左衛門 高物左衛門

高物

金田市多々木

寛政四年九月十五日 初見 ○同年
十月廿七日 初見 ○同年

[Faint, mostly illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side.]

台陸院殿御代

○ 金田 木氏子葉

平姓

馬式百石

森政 三編遠
鬼首

金田惣八郎心孫次男

志左馬

正延

台陸院殿御代次男。新親。馬式百石。大馬。平後。駿河大羽。三編。出附。

寛文元年四月十二日此年延惠光
英

正長

年之信

大猷院放御伏違違。平後大猷院寛文
元年五月廿五日。元禄七年同寺

正茂

八郎左衛門

明曆四年二月二日初元。寛文元
年。同十二年三月廿二日
大猷院。延至四年六月十七日此
六案同寺

山房

市郎左衛門

延宝四年七月十日卒。元禄八年七月朔日相。同日卒。享保二十年閏三月十五日死。同守。

正氏

志在事

市十郎

享保二十年六月六日卒。元文元年十二月廿七日卒。宝历六年七月晦日病免。同八年九月十八日社。

明和四年九月廿日死。七拾年同守。

正友

友之志

實心居功男

寛保二年八月廿日。卷子。宝曆八年九月十八日。同十年十月十日。大末。同十二年。同四月廿九日。病免。明和元年。同十二月十五日。死。七拾。

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

幸急務殿所代



金田

平姓

高二百石

兼收

三編遠
鬼首
三早院故

金田遠江守正勝五男

新左衛門

平氏 新五郎重

正朝

初正依

元禄十年十二月七日分給二百石

室永二年九月廿五日由近為數。同
年十二月十日由小納戶。同二年二
月西九由小納祖。享保二十年
○同年十二月十八日布衣
元文二年十月十日死。由台了。若守
矣

正弥

新苑

享保十五年八月十九日由書院為。
元文二年十二月二日由書院。寬保三
年閏四月朔日死。同守

正夏

平次郎

寬保三年七月二日由書院。元文七
年二月十日由小納祖。同十年由
大的由振式。同十年由振式。同十年

明和二年正月十九日死同守

夕臣

正貞

実心孫次男

明和二年四月三日卷子死同守
安永三年六月十四日西丸書院毒○同七
年十二月十七日死同守

傳左衛門

長三郎

正喜

実藏田市十郎親信次男

安永八年四月八日毒○同九年
三月十九日西丸書院毒○天明元
年同六月十八日

若君附○同二年九月廿五日毒○同
麻五物二子後園の五物式○同四年
八月廿二日毒○同廿九日毒○同三

同奉九月十二日吹上騎射及物三
之後四度及物拾及。同五年二月
四日吹上大的每張二之後三度每張
或。同六年十一月十二日騎射同
十七日全取收。之後每度全取收也
。寬政五年正月十二日。東村場物大
的每張或同十八日全取收。之後三
度每張或全取收。同八年六月十
二日。東小納戸。同奉十一月十九日布

夜。同九年二月古七日

若君附。○文化元年十一月十八日。同二年十一月
十二日。同四年十一月。同五年十一月

徳太郎

正登

寛政八年四月二日吹上寺的及物二
。同奉六月十二日初元

長

三

文化五年八月。西尾。同五年八月。同五年八月

信忠君印代

金田

平姓

高三子石

森致 三編遠
鬼首

葛原親王公子兼持人常陸
後亂之徒因作人金田在處矣
信吉次男

正具

孫三郎

延和勝見城之所在也。大承年

中有世愛与避父之件。三列情以

歌一色村石

安栖院殿

善德院殿(奉仕)死

正頼

子三在集

孫三郎

系譜

善德院殿(奉仕)死

正房

子三在集

小太郎

瑞雲院殿(奉仕)死

东照宮東迎侍。天文十六年

瑞雲院殿織田信秀(東合殿)子

東照宮永初年(永今川義元)依承

箕駿列(清和)依奉仕(死)

田原正忠意先依所孫不長之危別
織田信秀之件一八州之征の依
正房危別止察之次 還州之志異
相孫の如不孝之し事 病臥仕信秀
正房の討者怒之傳之死骸を危別
契田三田ヶ橋築城の

正統 忠八郎

東照宮康進傳○永祿六年一向宗孫
長海舟が監取歌を以て同年九月
二日由合戦之節が監取乞之節進
先鋒に戦七ヶ所を敵三ヶ所中芝
戦死十九軍正統居居友と一寺可
為建三旨何部大元正 依月三京
能見村原創仕照光山今田寺安
養院寺依石 柳葉原於飛

祐勝

惠八郎

惠次郎

実心房三男

兄戦死後養子と成り

台徳院殿御代末御子長七

年十一月五日死五拾七歳

正藤

惠八郎

東照官

台徳院殿奉仕大馬廻子次。大坂出陣

之節了伏見赤城に在り。元和元年

十二月十四日死五拾歳沙弥に成り

比中意致守人矣

正

正行

正行

大徳院殿御代末御子長七

正行

惣八部

九年次

正辰

慶長十九年大坂東陳伏奉奉歌

少水

台院殿大由美由依の同古年書陳
伏奉五月七日齋城の節詠歌進
少水進奉の歌を人給て実伏の
首級又歌の毛入奉出衣の歌とる紙

三子和更殆死甚ト云々母味方大軍
奉の二付歌云進交仕のる先老
余是母出衣実伏の歌ヲモ 後進部
少水の首在之 詠高細進
三聞同日

東照宮御徳を感勇切衣慶貴全
由枚物文正殿伏見在奉の
弓被取行子歌の如藤治方象
之意 東陳の後

台地院殿御前
百石加族。寛永八年加族百石
承元五年正月十日
同年十二月十八日
十二月十日加族三百石
四月日光寺依。寛文元年八月
十日
比子石左平次正親
同年九月十日

同年六月十日
同年八月二十日
年八月二十日
年八月二十日
年八月二十日

正親

数八郎

館林殿
正長
附山
比子

石物

遠江守 三左衛門 守三左衛門

正勝

梅山

明曆三年六月廿五日初元。方治
二年九月十二日定文元年八月十一日父之遠小村組定文二年
六月十日館林奏定文二年八月
三日父正名死同四日音若使音張在牧物

同年十一月廿九日。同古年十一月
朔日館林由城代由總物由前定文
物同土日定文。同年十二月廿七日叙
拜遠江守。天和元年三月廿七日由
制元。同年七月廿三日如後事由石
貞享三年六月廿三日病死。元禄
十年十二月廿七日叙仕由百儀奏定文科
同十年二月廿四日死七拾六定文石
子若年人莫。同年八月十四日遺物

東小旗及信國 代全古多致致

正通

五三石邊

物之物

寛文五年三月朔元。元禄十年十二月廿。多增了。中石。四月。石。正通。下。各七百石。次。石。正。別。三百石。古。石。新。石。馬。石。朝。石。知。石。永。元。年。古。月。十八日。被。府。知。

數同年九月朔日。康。元。同二年十月十五。日。停。宿。同三年八月廿七。死。古。拾。四。家。同。寺。

勝延

魚之信

元禄四年三月廿日。東小旗。上。三百石。同年十月十二日。死。古。嗣。東。池。

正澄

宋女 惠十郎 孫也

元禄十三年七月十二日初元。宝永二年九月立百部迎多妻。同年十二月立百部小村。同三年十二月十二日百部子名。同三年十二月十二日百部子名。右迎勝直(分部)。同六年一月秀合。享保元年十二月八日死。終三十一。同卒。

勝直

右迎

宝永三年十二月十二日百部知百部子孫全田。秀正字天明八年八月十九日迎多妻絶。

正甫

正甫 迎多妻 宋女 孫也

享保元年十二月十九日迎多妻。子

古百石之内三子正甫(古百石
次男孝次)丁酉年正月。同九年
七月十日初九。同十八年九月十日
出使。同九年三月十八日布衣。同
十九年八月十日。駿府。同九年
十月十日。同九年十二月十日。海福
。延享元年六月十日。大阪。同九年
代同七月十日。同二年四月十日
日。同九年九月十日。少。德。祖。文

元。至。唐。二。年。九。月。十。五。日。西。九。水。小。姓。
祖。文。同。年。十。二。月。十。六。日。德。文。文。任。
遠。江。守。同。四。年。十。月。初。日。德。書。院。
表。改。同。八。年。七。月。初。八。日。紀。元。表。使。
同。八。月。十。五。日。德。能。同。年。十。月。十。五。
改。同。二。年。七。月。八。日。德。制。元。同。六。
年。九。月。十。六。日。西。九。水。制。元。安。永。四。
年。八。月。十。八。日。德。元。同。五。年。六。月。

去八日死七拾歳同寺

正延

近江守利永子 采女大飛

徳之助

室曆五年三月十日。初見。明和
七年十二月申奥末小姓。同八年
七月十二日叙秀初永子。安永五年
九月十日。永徳。天明七年九月十日

小普儀組子死。寛政三年十月廿
六日。末持首級。同九年六月八日
後身未定。同年。同七月十五日

順金三叔四孫。初見。享和元年七月。同九年九月。同二年
三月。同九年。同年七月。同九年。同二年。同九年。同二年
同九年。同二年。同九年。同二年。同九年。同二年。

正壽

武部

安永三年。載後。長年。二言。同
寛政二年。二月。廿六。春。子。同二年

三月古百初九。同年十月十二。
 此上跨射及物三。同五年十月七
 日同之及物二。同三年九月十九日
 同之及物三。同八年九月二十。同及
 物二及。享和二年三月。同五年五月
 同之及。同三年。同五年。同四年。同五年。
 法高野法

卷有以故...

今字

高百依

源姓

表紋

抱柏

先祖不詳

師重

六云清

天樹院致作楊清殿。その色を衣
 水意之年。山崎に花あり。

長江院殿龍仁沙汰也徒後之長
山後人少成。貞享二年十月廿二日
死。年八。家小日向福勝身主。歿

重澄
太左衛門

正宝元年刻
澤揚院殿一。家小日向福勝身主。歿
。之禄十二年九月廿二日死。年八。家小日向福勝身主。歿

師負
初之清

貞享二年移回沙汰也。之
禄十二年九月廿二日死。年八。家小日向福勝身主。歿

師勝
平八

貞享二年九月廿二日死。年八。家小日向福勝身主。歿

九月廿二日松田功敏出陣方武指儀
或人持持幼人。嘉永之元年十月有
初九日指方組次。享保十二年九月
九日石尾助督殿始次基取以急。
日平九年六月十八日孫七指儀之旨文
持持言小治合言官儀之成。此享
元年十月廿七日。以之小治儀得春
為非。日三年十月廿五日有之文。
享保元年七月廿日官所任。以和元年

二月廿九日自死以言小蘇

年八

師
晴

至屬元年七月廿日在傳少重儀
日九年十月廿五日有也切定。天明
七年七月廿日自死以言小蘇

師
系

法
之
也

天明七年十月廿日

[Faint, mostly illegible handwritten text]

有院殿

字

字天孫後之

友原

家紋

之祖

助右

好那

寛文十二年刻
三人殺持。享保三年元

○以十三年正月八日死。後以兼
攝地女養育之。葬

好陳

幸右衛門

享保三年二月在洛。四年又可
。元文元年九月十二日死。以
十三年正月八日死。葬

忠補

物古丈 幸助 貞定 幸右衛門

元文元年正月二日在洛。○享
元年十月廿二日在洛。○元文
元年十二月十六日在洛。○元文
元年正月廿二日在洛。○元文
元年九月八日在洛。○元文
元年正月廿二日在洛。○元文
元年九月八日在洛。○元文

百納府。同九年九月廿一日元正也
舊納川用同十年六月廿五日右邊辰
井投。同十一年六月廿六日

停信統教。同新發也用以心分年
右邊辰辰夜。同十二年四月十日
三列去他橋至西東來東見心
同。同十四日官邸府。同十五年
右。同十六日長局三三。同新紀也
例。同十七日普德。同十八年

六月廿七日舊辰七夜。同十八年
三月廿九日。同新紀也用以
同。同十九日。同右邊辰七夜
。同二十年六月廿六日長局川用同
三月廿九日官邸府。同二十一年
舊辰七夜。同二十二年三月廿九日
。同二十三年。同二十日廿九日
。同二十日。同二十日

古庸

物之部

安永年六月十日
初定唐来百俵。○
正平五年六月十日
初定唐来百俵。○
正平五年六月十日
初定唐来百俵。○
正平五年六月十日
初定唐来百俵。○
正平五年六月十日
初定唐来百俵。○

森之村方
正平五年六月十日
初定唐来百俵。○
正平五年六月十日
初定唐来百俵。○
正平五年六月十日
初定唐来百俵。○
正平五年六月十日
初定唐来百俵。○
正平五年六月十日
初定唐来百俵。○
正平五年六月十日
初定唐来百俵。○

貞欣

忠清公男
富子物

元也之令子也乃其叔也服然以
浪人萩原七尾為名孫也其也
年八月廿七日田安殿沈山莊文

寛政三二年四月十六日
大猷公御百平回所心信事四月望五枚。四年十月廿日之信事信成後用事每令
三枚。文化元年正月廿日。所書信事每枚二枚。四年七月十日。曾
所到先打送。四年五月廿日。其書信事每枚五枚。文信元年正月
六日。大猷公御百平回所心信事每枚三枚。所書信事每枚二枚。四年
八月廿日。其書信事每枚三枚。四年八月廿日。其書信事每枚三枚。

楊田所叙

金子

平陸

家紋

唐月作所書
向一蝶又云巴

高平親王流胤金子也市平所
家範未孫金子也文雅也思欣

八太夫

正幸

日... 橋田... 二年... 小...

正房

八丈

常憲院... 〇... 〇... 〇...

〇... 〇... 〇...

某

八丈又

〇... 〇... 〇... 〇... 〇...

石坊子月四年十二月二十日切提作
外之取巻也

金澤

平姓

金澤

言百子集

景茂 新傳 佩玉

桓武天皇第六皇子一西或教之常宗親王
後胤乃法大根國者九代江馬小江郎義時
之男五郎實泰謙余為平賴經之次子
國之長政教金沃卿之次相換國龜之卷
后復金沃之郎之存又龜之長政之稱尸之
其年令沃之次民族之仕實泰之十二代



貞義

令沃如左事

天正十八年七月父足於小田原城歿死休
長依父之遺令再興家名以事奉及
獨乞與別當后不與度長又子年令休
陣之口年七月於下野國中於父
台德院極西目見亦作其令渡之地利尋
山川城郭陰易要害詳之上位
以勝利之令下陣麾下之勢古加方受

上之志林系或於大埔之屬相勤以系國系
涉福利以於口年八月死

義概

令沃助左事

度長又子年七月病歿其幼少亦不知
右出傳人仕在兵之口年九年大坂豐長
秀於集結國傳人以長應徵長保未丹後
長寧之系屬〇元和元年六月七日及

豊后氏滅亡豊州寺院乞文武州松竹坊
后復の高治元成年始高火消後
作舟以火火消組高力三長
系老妻仕長忽从病身有二月女在馬の区法
高治元成年十月七日死字八景
江戸約也勝枯与葵

二曾
正法

金沢女在馬

正蒙 市系

高治元成年九月八日火消組高力三長

立男
義重 武系
日人仕

現本以拾石。寛文三年四月日之

神社系以供。同日辰年八月番代先出隠

居。延寶六年十月廿六日死六十四歳日

寺

芳法

金沢助在馬

寛文四年八月火消高力。天和三年

△今更年六月廿二日
去所住心田中
只備主をくわ切腹
四ノ日寺に葬す

正月大に場河防号形は身候浪方取の身
夏二宮年十二月右日引合あり○同日卯年
十二月右日引浪方取之福を年三月移り日○宝永元
申年四月二日毒代浪居○正徳二年十二
月六日死す○葬す

義武 △今更年六月廿二日
今更年六月廿二日

宝永元申年四月二日大消力○享保

九辰年四月廿七日死す○葬す

義卓 今更年六月廿二日
今更年六月廿二日

享保九辰年四月二日死す○葬す
五月廿五日死す○葬す

衣子孫當時今更年六月廿二日死す○葬す

行登

名尾 皇太子御
倉波又三郎 刀次郎

寛永三成年十一月二日大酒多力名尾又三郎
約承太子之命同日庚午二月二十八日
番代○同年十二月大車場消防番約承
在令其為其後之友○享保太子年二月
相解國令及上馬大車場上試以初其作
右試宗相勤○同年九月十八日馬之

○同八成年始為該組多力同心抱御
以之其六月朔日多力口百獲張或取○
寛保元自年^{信之}少元左馬番代^{信之}名尾
苗取和續力仕實方苗中又金沢^{信之}渡上日年
七月十日死力十二兼口寺

女貞

金沢瀬三郎 女貞部 貞右衛門助部

寛保三成年十一月二日大酒多力名尾 右出○

延喜元年正月元日一掃御座敷出方衣
女骨打以名 冲卷之儀本多任禮子殿以
之骨之衣 深淺。同年四月十六日二九出衣衣
骨打之骨 獲浪之衣。同和六年正月其衣
之能勘定。同年十月十七日評定所當儀助
。同七年七月八日水勘定評定不面儀。
女形三年七月廿六日水勘定組次。
同日三年六月二日衣 淨社系以掛
。同八年四月 淨社系以依。同年

六月廿七日獲令或衣。同年十二月廿九
水五箇掛衣。同日七年十二月十六日德州
掛別川之水骨傳涉利掛日月廿日水勘令
之衣時服二羽打。同日八年二月廿二日
獲令令之衣時服二。同年十二月廿八日東海
道筋川之水骨傳江戶用掛。同日九年
二月廿六日獲令三衣。同年十二月十三日園東
筋川之水骨傳江戶用掛。同日九年正月
正月廿九日甲州川之水骨傳江戶用掛。同日

年五月十九日獲令之教。○日二年五月廿日
武州上野信長砂降村。長門。○也當後
江戸。○用掛。同。日。在。年。二。月。八。日。獲。令。之。教。
○日。又。三。年。七。月。廿。日。為。之。出。候。相。勤。以。三。月。
○也。加。増。五。拾。俵。○同。六。年。二。月。廿。日。下。總。五。
平。播。治。新。國。始。別。具。合。名。之。出。候。令。一。枚。
○同。年。二。月。十。六。日。涉。役。出。免。小。當。後。入。免。取。
○同。七。年。二。月。十。七。日。免。取。出。免。○實。之。教。三。
○實。年。六。月。七。日。一。枚。○涉。役。目。付。○同。年。六。月。廿。

右。日。為。勘。定。奉。納。○同。又。三。年。六。月。廿。日。
初。奉。納。○同。六。官。年。同。十。月。十。二。日。用。人。
日。年。十。二。月。十。八。日。布。衣。○日。八。辰。年。二。月。十。日。
死。六。十。八。歳。弱。也。勝。林。寺。葬。

千秋

金沢瀬去湯

急松

或去瀬去湯

言百去拾俵

天明元年八月六日初母人。○同六年六月
月十日。○也。勘。定。○同。年。十。月。十。日。又。免。取。

○三月十日武列事
○三月十日武列事

○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事

○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事

○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事
○三月十日武列事

